

「中条堤」



(中条堤 説明板)

中条堤は行田市北河原他に残存する、江戸時代から明治時代にかけて治水システムの要として機能した堤防です。

中条堤の下流、行田市酒巻と利根川の対岸千代田町に人為的に狭窄部を設け、増水時の利根川、福川の



(中条堤2)

氾濫水をこの堤により上

流の熊谷市と深谷市の一部を含む地域に意図的に氾濫させ、結果的に下流の洪水を軽減し、忍藩領、最下



(中条堤3)

流の江戸を水害から守りました。

築堤起源については諸説あるが、その巧妙な仕組みから見て伊奈忠治によって本格的な整備がなされ、その後徐々に拡大されて

いったものと考えられています。



中条堤をご視察になる皇太子殿下（埼玉県行田市）
（写真：国土交通省）

（皇太子殿下ご視察）



(中条堤1)



(北河原用旧水元坎)

文・写真：紺野 仁